

■■メールマガジン「静岡県防災」第66号■■

～ 災害を乗り越えるためには(珠洲市健康増進センター) ～

-本号では、『令和7年版防災白書』に寄稿されたコラムをご紹介します。-

令和6年能登半島地震の災害支援において、珠洲市保健医療福祉調整本部長を務めた珠洲市健康増進センター所長三上 豊子（さんじょう とよこ）さん。発災後、炊出し、入浴支援、生活全般の調整を一手に担う。

また、被災高齢者等把握事業の陣頭指揮を執り。4月からは復旧・復興本部被災者支援部会長も兼務。珠洲市において被災者支援の中核を担い、ここまで尽力されてきた三上さんからメッセージをいただいた。

『震災で改めて珠洲が好きだなと思った。

震災時に生きるのは地域力だと思う。珠洲市では家の倒壊に比べて人的被害が少なかった。どこに誰がいるか、地域の人たちが把握されていて、コミュニティがしっかりしていたことが大きい。

改めて平時から顔の見える関係性が重要だと感じ、今も地域で乗り越えようとしている姿に元気ももらっている。

また、令和5年奥能登地震で御支援くださった外部支援団体の皆さんが、すぐに駆けつけてくれた。皆さん、土地勘があり、孤立しそうな高齢者などをすでに把握されていたので、それぞれの団体がすぐに現場へ行ってきて、私の目なり耳となって、現場からたくさん課題を持ち帰ってくださった。私はそれを一つずつ、解決することに専念でき、官民連携することでスピード感をもって対応できると実感した。

珠洲を離れてしまった方も残った方も、それぞれ珠洲に対する思い、復興させたいという強い思いがある限り、私は寄り添いたいと思う。

どれだけ震災で傷ついても珠洲にいるとほっとする。安心できる。私はこれをそのまま守っていきたい。

その一助になればと考えて、日々業務にあたっている、一生懸命もがいている人がたくさんいることを知って欲しい。

最後に、備蓄は3日分ではなく、1週間分必要です。地震の備えも強化してください。』